

ドローンで防除作業を 楽にしましょう

稲の出穂期前後は、いもち病、ウンカ類、斑点米カメムシの防除が必須です。

ドローンで農薬を散布すると、タンクやホースを持つ負担がなく、作業時間が動力噴霧機の30%に短縮されます。防除効果は変わりません。

○実証試験の結果（2023年）

・使用農薬：ビームエイトスタークルゾル

1. 作業時間

	作業人数	作業時間	延べ作業時間
ドローン	2人	1.4分/10a	2.8分/10a
動力噴霧機	4人	2.5分/10a	10.0分/10a

2. 防除効果（発生数）

	穂いもち	斑点米	坪枯れ
ドローン	0	0	なし
動力噴霧機	0	0	なし



ドローンによる薬剤散布



動力噴霧機による薬剤散布

○ドローン防除の注意点

- ・ドローン散布の登録がある農薬を使用しましょう。
- ・栽培ごよみに従って、薬剤散布は2回（穂ばらみ期と穂ぞろい期）しましょう。

中干し期間を延長して 地球温暖化ガスを減らしましょう

水稻栽培の中干しには、無効分げつの抑制、根の活性化・伸長促進、田面を締める、倒伏防止、登熟向上等の効果に加え、水田から発生する地球温暖化ガス（メタンガス）を減らす効果があります。中干し期間を通常より7日間延長すると、ガスの発生が30%削減されます。

中干し期間の延長が水稻の収量や品質に影響があるか調査すると、収量はやや下がりましたが、倒伏程度は軽くなりました。

○実証試験の結果（2023年）

- ・品種：コシヒカリ
- ・肥料：登熟一番20W 18kg/10a 側条施肥
- ・中干し期間
延長：6月26日～7月12日（17日間）
慣行：6月26日～7月5日（10日間）
※中干し期間中、降雨が続き、十分に干せなかったため当初の計画（延長14日間、慣行7日間）よりも3日間延長した。

1. 収量と品質

	収量	等級
延長	508kg/10a	1
慣行	537kg/10a	1

2. 収穫時の様子



延長



慣行

○中干し延長の注意点

- ・栽培ごよみを参考にして、茎数が20本になったら早めに中干しを始め、幼穂形成期までに終わらせるようにしましょう。
- ・過度の中干しは、根が切断されたり、土壌の保水性が下がり、収量や品質に影響を与える可能性があります。7日間程度の延長は影響が小さいと思われませんが、天候や排水性等の土壌条件に左右されるため、土壌の状況を見て期間を決定する必要があります。